

クリシュナ・ムールティ神像のこと

東方研究会専任研究員 及川 弘美

□

クリシュナ神はヒンドゥー教の代表的な神のひとつです。インドでは、この神様にまつわるさまざまなエピソードがあり、それをモチーフとした民芸品や工芸品、また絵画などが、いたるところでみられます。そして、これらのエピソードの舞台となつたのが、私が昨年二ヵ月程（一九八九年八月～十月）滞在したヴリンダーヴァンというところです。

ヴリンダーヴアンは、デリーとアグラとの間、ややアグラよりのヤムナー川右岸に位置しています。人口約二万人の小さな田舎町ですが、クリシュナ信仰の聖地であるため、この地をめざしてインド中からたくさんの人々が巡礼に訪れます。寺院や社の数も非常に多く、その数は大とりまして四千にものぼるといわれています。それらの寺院の大半はクリシュナ神を祀っています。

そして、そのような寺院の一つにラーダーラ

マンというお寺があります。このお寺には、身の丈六〇センチメートルほどのクリシュナ神像が祀られています。この神像は、黒い大理石でできており、全身黒光りしています。フルートを吹くポーズをとつたその像の頭には、孔雀の羽と黄金で造られた王冠や装飾品で派手に飾りたてられています。その表情は、黒い顔の中に見開かれた眼だけが異様に白く、不気味に見えます。見る人を和ませるような重量感や静謐さを湛えた日本の仏像とは、全く対称的です。

2

ご身体（神像）のこと

をサンスクリット語やヒンディー語で、ムールティといいます。印度では、ムールティはきわめて大切に扱われます。なぜなら、ムールティは、単なる神様の姿に似せて造られた偶像ではなく、神そのもの、あるいは神が顕現した姿と考えられているから

です。つまり、ムールティは神とイコールなのです。ですからムールティはあたかも生きているかのように、毎日大切にお世話されます。毎朝、沐浴がなされ、美しい絹の衣が着せられ、そして水、花、果物、食事などが捧げられます。

これら、ムールティに捧げられた品々は、神からのお下がり（プラサードウ）として参拝（ダルシャン）にきた信者に配られ、また、沐浴に使われた水は、聖水として信者に振り掛けられたりします。ラーダーラマン寺院では朝は四時半、夕方は六時四十五分頃の二回のみ参拝が許され、そのときだけクリシュナのムールティを拝することができます。

私も何度か参拝にてかけました。そして、信者たちが礼拝する姿をまのあたりにしました。かれらは、裸足で寺院の建物の周りを時計まわりに一周してからムールティが祀られている講堂に入ります。入るときには、入口のところで

右手をつきその手を自分の額にあてて礼をしてから中に入ります。もちろん、このときも裸足

です。講堂の正面は舞台のように高くなつております。

その中央に美しく着飾つたクリシュナが鎮

座しています。かれらはまず、クリシュナに向

かつて床に跪いて額を床に付けるか、五体投地

または八体投地ともいわれる最高の礼をし、そ

れから立ち上がり両手のひらを組んで祈りま

す。興味深いことに、かれらはその際、眼だけ

が異様に目立つあのクリシュナのムールティ

と、しつかり眼と眼を見合わせるのであります。

まるでこの世の最高の美に遭遇したかのようにはば

らくの間うつとりと、そして熱心に見つめるの

です。その姿は、実に真剣そのものでした。祈

りを終えるとお賽錢をあげます。そしてバラモ

ン僧から手のひらに聖水とトゥルシー木の葉を受け取ります。それから聖水を一口飲み、残り

を頭にふりかけ、プラサードウのお菓子をもら

います。出る時も、入つてくる時と同様に礼をして去ります。

3

ところで、正直言つて、私にはあのムールティがどうしても神聖な崇拜の対象として見るとがきませんでした。それどころか、あんな人形の様な像に熱狂的に信仰を捧げる人々の気が知れない、とても自分には理解できない世界だ、という気持ちで一杯でした。私はそれまで、手を合わせるという場合、その対象はまず第一に亡くなった祖父母とかご先祖様でした。神は、目に見えないもの、姿なき手の届かない存在で、そこになにか神聖さがあるようと思われました。だからムールティを熱烈に崇める信者たちの姿が、私には、異様な狂信的なものとしてしか見えなかつたのです。

しかしかれらと接し生活を共にしていく中

で、かれらヒンドゥー教徒が決して狂信者なのではないということが、少しずつ理解できるようになりました。かれらにとって神はごく身近な存在であり、同時に自分の内にもかれらは、それぞの神を持っているのです。そのような

人々にとつて、ムールティの姿・形は問題ではないのです。より大事なのは、どのようなムールティであろうと、それがムールティである限り、神の姿そのものであるということなのです。

(つづく)

